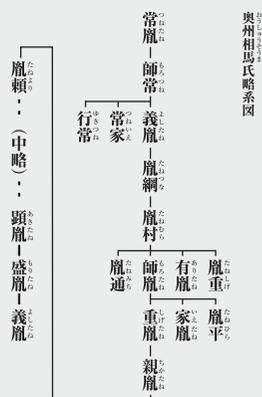


奥州千葉氏

奥州相馬氏

奥州相馬氏の祖は、千葉介常胤の次男師常です。師常は、奥州合戦の手柄で陸奥国の中（今の福島県相馬地方）に所領を得ました。当初、師常は、本領のあった下総に住んでいましたが、1322年（元亨2年）師常の孫、重胤の代に奥州に移住しました。以後、家督は、重胤の子孫盛胤へと継承されました。盛胤の子義胤は、1590年（天正18年）豊臣秀吉による小田原城攻めが行われると、この合戦の手柄で秀吉より奥州内に4万8千7百石の領地を認められました。義胤は、関が原の合戦では家康に従わなかったため、一時領地を取り上げられますが、子の利胤は家康から6万石の領地を認められ、1611年（慶長16年）、中村城（福島県相馬市）を築いて移りました。以後、相馬氏は明治維新まで続きました。



中村城跡 相馬市中村

奥州相馬氏は、慶長16年(1611年)、中村城を築き、ここに移った。